

医療ニーズ:高粘度分泌物を吸引する方法



医療ニーズ提案部門
滋賀医科大学 附属病院 看護部

「口腔内吸引を持続したい」

■看護部ホームページ
<http://sumsnurse.es.shiga-med.ac.jp/>

■ニーズの背景

- ALS患者など、唾液を自力で呑み込めない患者に対して、肺合併症や唾液の漏出を予防するために口腔内持続吸引を行なう。
- 口腔内にチューブを留置し、唾液を吸引するが、粘度の高い分泌物を吸引するとチューブが目詰まりを起こしてしまう。

■現在の対応方法

- 目詰まりを起こした部位を吸引器で吸い上げる。
- 定期的に水を通して点検する。分泌物の粘度を小さくするために、患者に水分補給を勧める。

■使用頻度や市場性(マーケットサイズ)に関する情報

- 日本におけるALS患者数:8,492人(2009年)
- ALS患者だけでなく、吸引は日常茶飯事に行われる。

【イメージ・参考例】 現状の吸引装置



機能アイデア例

- 構造的(チューブの太さ等)に詰まりにくい機能
- 材質的に分泌物が付着しにくい機能

お問い合わせ先

滋賀医科大学 研究推進課 産学連携係

電話: 077-548-2847

メール: hqsangaku@belle.shiga-med.ac.jp